

高・大・一般 漢字（草書）



加藤 東陽

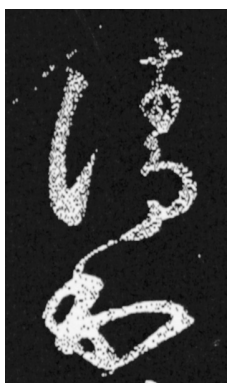
十七帖（王羲之）
⑬



（動静）清和（状態は極めて平穩です）



参考資料 清和〈数都問帖〉より



〈解説〉

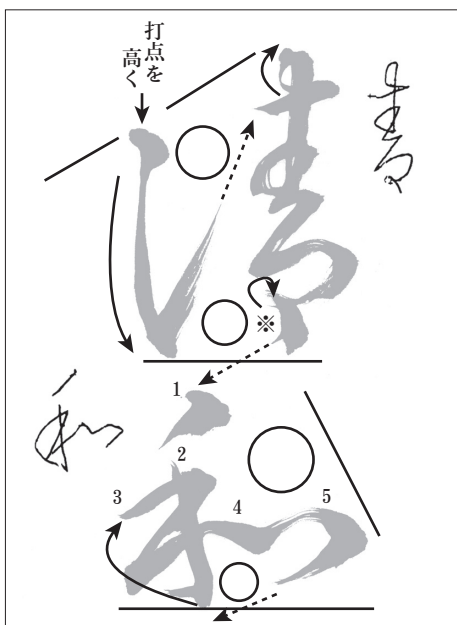
これまで「十七帖」（三井本）を十二回の予定で学習してきましたが、これを少し延長して、草書の流動美（筆画の変化する力の流れ）などを、さらに深めたいと思います。

今月は、課題と同じく王羲之の「数都問帖（参考資料）」と比べて、画間や字間（清から和への空画のつながり方）など前後の変化に留意して、書き進めるリズムや勢いなどを身につけてください。

〈学習上の留意点〉

「清」…シ（さんずい）の起筆は打点を高く、しっかり筆を突き落とします。その反動を利用して穂先を立てて、左に湾曲しながら太細の変化をつけ、右上へ強く払い上げます。また、青の結び（図の※印）は筆脈を保ち、ゆっくりと「和」の一面目にむけて左下に払います。

「和」…禾（のぎへん）は、筆脈を切らずに空中で運筆します。旁の「口」の収筆は、止めてもよいのですが、下の文字へ続く筆脈のため、左下へ払います。



高・大・一般 漢字

新(10級から五段までは作品用紙として画仙紙八ツ切り(68cm×17.5cm)又は、画仙紙半切(136cm×35cm)の出品。
六段から八段までは作品用紙として従来通り画仙紙半切(136cm×35cm)のみの出品です。

加藤 東陽



〈釈文〉桃李春風一杯酒

江湖夜雨十年燈

〈読み〉桃李 春風一杯の酒

江湖 夜雨 十年の燈

〈出典〉黄庭堅詩句

〈意味〉その昔、桃李の花の下で、春風に吹か

れて一杯の酒を酌み交わしたが、それから十年、私は江湖の雨降る夜に灯を見ながら、あなたのことを思い、日々を過ごしています。

〈解説〉

今回は詩意を大切に、作品が単調にならないように構成(リズム)を考えて書きました。



「桃李」は、意連(気持ちのつながり)ですが字間が離れすぎないように注意しましょう。

「春風」は形連(実線での連続)なので、「風」の「虫」を少し右寄りに行っています。「桃李春風」の四か所の縦画(図の矢印)が一直線にならないように、少しずつ右に移す工夫が大切です。



「一」で墨継ぎしますが、短く書きます。「酒」



「湖・夜」は両者の外形に変化をつけて、「雨」は、字形を小さくして右に傾けました。



「十・年」の縦画はそれぞれ「直」と「曲」で書いていますが、行の中心を保つことを意識しましょう。落款はあらかじめ雅印を押す位置を考えて、行の中心よりも右に書きました。